

各水試発トピックス

全国豊かな海づくり大会で両陛下への御説明を実施

前々号(106号)でも触れましたが、令和5年9月17日(日)に、厚岸町で天皇・皇后両陛下をお迎えして「第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会」が開催されました。本大会では、式典行事と海上歓迎・放流行事が行われ、その他に企画展示などが催されました。

功績団体の表彰や両陛下からの稚貝等のお手渡し等を行う式典行事の後、海上歓迎・放流行事の前に、両陛下による御放流魚等御覧がありました。ここで道総研水産研究本部の木村本部長が御放流魚、お手渡し魚計6種について、両陛下に説明いたしました。10分弱の間、資料類を参照せずに説明し、ご質問にも随時対応する難しい役回りでしたが、無事に終えることができました。

その後、釧路水産試験場の試験調査船北辰丸も参加した海上歓迎行事に続き、放流行事では、栽培水産試験場が約半年間かけて大切に育て上げたホッケイビの種苗とマツカワの種苗が放流されました。両陛下が御放流台から両魚種を放流される際には、木村本部長は両陛下のそばに付き、後方から衆議院議長や農林水産大臣、水産庁長官、北海道知事らが見守る中、御放流のタイミング等を両陛下にお知らせする大役を担いました。前日に入念にリハーサルを行った甲斐もあり、これも無事に終わりました。

水産研究本部ではこの他に企画展示として、水産研究本部の直近の研究成果のパネルを10枚展示し、成果の普及に努めました。

本大会では長い間準備、そして当日の運営を实

施した北海道庁の方々にとって大変な苦勞があったかと思えます。道総研でも前述の栽培水産試験場、北辰丸の職員に加え、釧路水産試験場の職員も会場運営等で協力したところです。

本大会を通じて、大会の理念にもあるように、豊かな海の恵みに感謝し、栽培漁業や地域資源の利活用が推し進められ、水産業の持続的発展と地域の活性化が図られることが期待されます。



写真1 海上歓迎行事でお手を振る両陛下と木村本部長



写真2 種苗を放流される両陛下

(写真提供：北海道)

(三坂尚行 水産研究本部企画調整部)

各水試発トピックス

コンブ養殖漁業振興研究チームが 道総研理事長賞を受賞！

令和5年10月27日にWebにて開催された「令和5年度地方独立行政法人北海道立総合研究機構職員表彰」において、コンブ養殖漁業振興研究チーム（前田高志主査（稚内水試）、秋野秀樹研究主幹（函館水試））が道総研理事長賞を受賞しました（写真1）。

この賞は、職務に関して有益な研究を遂げ、その研究により新規にもしくは先導的な発明発見をした成果において、北海道の産業開発や道民の生活向上に特に貢献した研究を行った職員に授与されるものです。

近年、渡島総合振興局管内のコンブ生産量は、高水温などの影響により天然コンブの減少が著しく、養殖コンブに大きく依存しています。しかしながら、函館市沿岸で行われている養殖コンブにも天然コンブ減少や気候変動に起因する生態変化の影響がみられています。養殖コンブの種苗生産には母藻として天然コンブを用いていますが、こ

数年では種苗生産に十分な量を確保することが難しくなっていました。また、海洋環境の変化により天然コンブの成熟時期が遅くなってきたため、採苗時期が9月から10月に約1ヵ月遅くなりました。そのため本養成（海面養殖）が短縮され、収穫するコンブが短い、薄くなるなどの問題が生じていました。

これらの問題を解決するために、未成熟な母藻を早期に成熟させる成熟誘導技術の開発と成熟誘導技術を用いて早期に生産された種苗を養殖する促成養殖試験に取り組みました。研究の結果、未成熟な天然母藻を室内水槽にて水温と光条件を調整し、栄養塩を添加しながら畜養することで成熟を促進することができる成熟誘導技術が開発されました。この技術により、種苗生産を通常より2週間以上早く開始できるようになったことで、本養成の開始時期も早めることができました。本養成を早く開始することで、養成期間を長く確保でき、その結果、収量の維持や増加を図ることができるようになりました。この成果が認められ、理事長賞を受賞しました。

近年、全道的に海水温の上昇がみられており、函館市沿岸以外のコンブ養殖にも本研究の成果が応用され、本道のコンブ養殖の維持、発展に寄与することが期待されます。最後に本研究にご協力いただいた方々に深く感謝するとともに、謹んでご報告いたします。

（高島信一 稚内水試調査研究部）



写真1 受賞した前田主査